

第 26 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名		第 26 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和4年3月 25 日(金) 10:00～11:40		
開催場所		精華町役場 図書館集會室		
出席者	委員	上甫木委員(委員長)、西島委員(副委員長)、畑中委員、寺本和生委員、寺本英樹委員、信田委員、井澤委員、岩本委員、鷹居委員、山本委員 (敬称略・順不同)		
	事務局	健康福祉環境部環境推進課:岩前部長、竹島課長、奥村係長、佐藤 (敬称略)		
		(株)地域計画建築研究所(アルパック):中川、齋藤 (敬称略)		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由				
会議次第		<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">① 委員長・副委員長の選出について</p> <p style="padding-left: 20px;">② 年次報告「精華町の環境(令和2年度)」について</p> <p style="padding-left: 20px;">③ 次年度の進め方について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料① 精華町の環境(令和2年度分)、その概要 ・資料② 精華町の環境見直し(案) ・資料③ 令和4(2022)年度スケジュール(案) ・参考資料① 精華町環境推進委員会規則 ・参考資料② 第25回精華町環境推進委員会会議録 ・当日配布参考資料 精華町災害廃棄物処理計画の策定について 		

事務局

本日は、公私何かとご多用の中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。第 26 回精華町環境推進委員会を開催する。

まず、精華町環境推進委員会の委員の委嘱について説明したい。前期の委員の委嘱期間が、令和 3 年 11 月 13 日までとなっていたことから、今回の委員会において、新たに委員の委嘱をさせていただいた。

各団体からの選出委員については、精華町自治会連合会から西島周次様、精華町女性の会から井澤孝子様、一般公募により、岩本登志男様

が新しく委員となった。

委嘱状については、本来であれば、お一人ずつお渡しするところではあるが、1月下旬に本日の環境推進委員会の開催案内とともに郵送でお送りさせていただいた。ご了承のほど、よろしく願いたい。

また、お一人お一人の委員の紹介については、委員名簿により、紹介にかえさせていただいた。

<委員紹介>

それでは、2年間よろしく願いたい。

事務局

委員会の成立に関しては、精華町環境推進委員会規則第3条第2項の規定により、半数以上の委員の出席が必要となっている。

本日の委員の出席者数は10名で、委員総数10名であるため、本会議は成立していることを報告する。

また、本委員会における傍聴の申し込みは、無かったことを報告する。

続いて事務局の紹介を行う。

<事務局紹介>

それでは、第26回精華町環境推進委員会の開催にあたり、健康福祉環境部 部長 岩前から、一言ご挨拶させていただく。

1. 開会あいさつ

・健康福祉環境部長あいさつ

事務局

本日、お配りしている資料の確認を行いたい。

<資料確認>

それでは、議事に移りたい。

2. 議事

① 委員長・副委員長の選出について

事務局

まずは、役員の選出に移りたい。委員長、副委員長の選出については、規則第2条第1項および第3項に規定されている。委員長は委員の互選から、また、副委員長は委員長からの指名と定められている。まずは、議長の選出であるが、何かご意見等あるか。

- 委員 (特に意見なし)
- 事務局 特にご意見が無いようなので、事務局としては、引き続き委員長に上
甫木委員にお願いできないかと考えているが、異議はないか。
- 委員 異議なし。
- 事務局 ありがとうございます。それでは、異議なしということで、上甫木委
員に委員長をお願いすることに決定する。よろしくお願ひしたい。
それでは、上甫木委員長より、あいさつをお願ひしたい。
- 上甫木委員長 おはようございます。第26回という事で、これまで10年近く進め
て来た。昨年度は第2次計画を策定し、次のステージを迎えて、これま
で以上に町民や事業者との連携を進めて行きたい。みなさまの力を借
りながら議論を進めて行きたいと思っているので、よろしくお願ひし
たい。
- 事務局 ありがとうございます。次に副委員長の選出を行う。副委員長は、
委員長からの指名となっている。委員長よろしくお願ひしたい。
- 上甫木委員長 地域で住民と行政の相互連携に熱心に取り組んでおられる精華町自
治連合会の西島委員にお願ひしたい。
- 事務局 委員長から指名いただいた、西島委員に副委員長をお願ひしても良
いか。
- 委員 異議なし。
- 事務局 それでは、西島委員に副委員長をお願いすることに決定する。
規則第3条第1項に基づき、上甫木委員長に議事の進行、議長をお願
ひする。

- ② 年次報告「精華町の環境」について
・事務局が資料①について説明

上甫木委員長

ありがとうございます。何か質問等あればお願いしたい。

山本委員

私の地元の話で、今年に入ってから、十数年前に親を送ってから、お風呂は薪を使っている。知り合いから要らない木があるから貰って欲しい、と言われた。薪を貰って帰る所、軽トラに積んでいたら、地元の人から、それをどうするのかと尋ねられて、風呂の薪に使うと伝えたら、そんなことをしたらCO₂がいっぱい出るのではないかと言われた。

びっくりしたが、バイオマスエネルギーでも藪が綺麗になるだけでは無く、カーボンニュートラルという考え方が含まれている。その辺りの事が、私を含め、高齢者世代は、カーボンニュートラル等といった概念も理解が進んでいない。今後の取組であると思うが、みんなが理解できる説明が必要である。きれいな言葉を並べても、自分には関係無いと受け取りをしている人が実際は多い。しっかり説明することが重要だ。

井澤委員

バイオマスについては光合成をしているので、燃やしてもプラスマイナスはゼロになる。なので、CO₂を増やす事には繋がらないと思っている。畔の野焼き等も虫を出さないために燃やしている。今あった様なご意見もしっかり説明をしてあげればよいと思う。

また、「今後の取組の参考にさせていただきます」という回答について、竹林の放置問題は非常に大きな問題である。私自身も竹林農家だが、竹林の保全と筍の収益のためにかなり労力を使っている。放置しているのは、担い手がないから放置せざるを得ない、ということが問題だと思う。いずれにしてもこういった回答をするのであれば、毎年、どういったことを行ったのか、具体的なフォローアップをして欲しい。例えばボランティアを募って竹林保全活動を行うなども考えられる。言葉だけだと成果は上がって来ない。

上甫木委員長

ありがとうございます。普及啓発と取組の更なる活発化、という事であろうかと思う。竹林保全活動について具体的にボランティアを募るという事も問題提起していただいた。

畑中委員

まず、薪を燃やしてCO₂を出しているのではないかと、という話については、先ほどの井澤委員のお話の通り、植物は燃やすとCO₂を排出するが、成長過程では光合成により大気中のCO₂を吸収するので、排出と吸収によるCO₂のプラスマイナスはゼロでカーボンニュートラ

ルとなるが、国際的には森林面積の減少が進んでいるので、究極に言う
とニュートラルにはなっていない。2050年に出せるのは森林吸収量だけ
となる。

竹については、以前お話したことがあるかも知れないが、兵庫県の淡
路島旧五色町の温浴施設で恐らく全国で唯一、燃焼温度の工夫等によ
り竹のチップを使っている。

脱炭素の動きと並行して、プラスチックなどの化石資源などをいか
に減らしていくか、例えばホテルのアメニティなどを木や竹に変えて
いく動きがヨーロッパから始まって、日本にも出て来ている。そう
なると、バイオマスはエネルギーの前にまずはマテリアルとして使
う方向に最終的にはなっていくと思われる。エネルギーとしての利用
は地域の中で、先ほどお話されていたお風呂の薪に使うなど小規模で
使うことがありうるが、まずは色々な素材の原料に使われ始める時代
がそう遅くなくやって来る。昨日、愛知県でシンポジウムを行ったが、
産業界は進んでいる。

井澤委員

できるだけ早く、そういう構造の社会を構築していただかないと私
たち末端の筍農家は持たない。精華町の山はかなり急務である。長岡京
の西山などは環境整備が整っているが、精華町の山の整備はごく一部
なので、町全体をあげて早くしていただかないと藪が荒れ放題になっ
ている。

畑中委員

淡路島の場合は、竹のチップは地元のNPOなどが有償で供給してい
る。

井澤委員

私たちの地域も竹酢が流行った時に、そういった事をやっていたが
結局は止めになった。やはり山から切り出して来る時の労力の問題で
続かなかったので、その様な社会構造が構築されて来たら、やはり町を
あげて竹藪に取り組むという姿勢を示してほしい。

畑中委員

白浜のアドベンチャーワールドでパンダの餌として京都と大阪の岸
和田から笹を送っている。岸和田市がパンダの保護活動の拠点を作ろ
うとしている。パンダの餌になるのは穂先だけで、それ以外の部分は集
成材や木工品などにして、どうしても使えない所はチップ化して地元
のクリーニング工場の熱源などに使おうという話も出てきている。こ
の様に仕事を作って、アドベンチャーワールドでも社会貢献している。

これからそういった動きが出て来るのではないかと考えている。

井澤委員 なかなか個人ではそういったことができないので、行政の方で仲介や見通しを持っていただいて、精華町全体で取り組んでいただけないかと思う。

畑中委員 精華町に立地している企業で、アメニティでプラスチック製のボールペンなど使用している所を精華町産の竹に切り替えて行くなども考えられる。ちょっと割高になるが、そういった所から切り替えて行ってはどうか。

井澤委員 女性の会は消費者の側なので、スターバックスなどではいち早くストローを木質にした。こういった店を評価の対象とすることも考えている。その様な店を少々割高でも選んで行く、それをみんなに広げていくことが重要だと思う。

畑中委員 素晴らしい。それは重要な事である。

上甫木委員長 今の話はクールチョイスの話などにも繋がり、次の議論で来年度以降の取組の話もあると思うが、プラットフォームの活動などに取り込んで行ければ良いのではないかと思う。

回答内容を次年度の取組にしっかり繋いで行くことが重要である。

それでは報告については、ご了解いただいたということで、よろしくお願いたい。

③ 次年度の進め方について

・事務局が資料②について説明

上甫木委員長 ありがとうございます。第2次基本計画の年次報告書のまとめ方についてご提案いただいた。体裁については、また変わる可能性があると思うが掲載する内容についてご意見をいただきたい。

信田委員 フォーマットはPDCAがより明確になってよかったと思う。ここで掲げられているそれぞれ環境目標は、環境像2や3以外は、情報発信等の啓発活動の結果になっている。

これを環境目標にしてしまうと、できたかできなかったか、チェックが働いてこないと思う。私が前回発言したが、環境像3の資源・エネルギーが巡る町について、資源についてはごみ量がどれだけ削減できるかがあるが、他は情報発信に関する内容になっている。昨年11月の前回推進委員会で、今回の環境基本計画の期間であるこの10年間は気候変動にとって非常に重要な期間であると発言させてもらった。この10年でCO₂の削減に取り組まなければ1.5°C未満に抑えることができないということだと思う。精華町はこの目標が全く決まっていない状況で、取組が難しいという話もあったが、京都府が計画を作っているわけなので、精華町も取組を行う必要があると思う。精華町内の事業所でのデータなども含めて検討する必要があるのではないか。そのあたりの話が反映されていないし、これではチェックの役割を担えないと思っている。この目標でよいのかと考えている。

上甫木委員長

信田委員のご発言はよくわかるが、この年次報告の資料は、委員会でも議論し策定した環境基本計画に沿って作成されたものになる。それとは別に前回の11月以降に事務局で何か検討したことがあれば、説明をお願いしたい。

事務局：竹島

信田委員から前回、具体的な数値、特に地球温暖化防止に向けての温室効果ガス削減の精華町としての数値等について意見をいただいた。現状把握については、町としても把握しなければいけない事は認識しているが、これからと考えている。一度に把握すると言うのは難しいと思っており、徐々にでも、ここで掲げている啓発の中で、町民のみなさまに啓発をしていきたいと考えており、今年度も取り組んできたクールチョイスの中でも啓発して行きたいと考えている。

また議会でも地球温暖化防止に向けての数値的な目標が必要ではないか、と指摘をされており、危機感も持っている。徐々にでも数字を調べて分かりやすく啓発して行きたいと思っている。

井澤委員

途中退席するため、的外れかもしれないが発言させていただく。女性の会は、直接的に家庭生活や消費などに関係する団体のため、はっきりした数字が出てくると、女性の会でも取組がしやすい。単に啓発ということであれば、なかなか具体的な行動に繋げて行きにくい。

以前にもレジ袋有料化の話などの際には、そこからマイバッグ運動など、具体的な運動に展開して行けた。この場合は、町民に向けて、具体

的な事を発信する場になればと思っている。

信田委員 今の件に関して、精華町から立地企業に向けてどの様なデータ取っているのか、何か動きがあるのか等について聞く努力をされたのか、まずそこが知りたいと思っている。

事務局：竹島 動きはしている。

信田委員 例えば、先ほどの竹林の話やバイオマスエネルギーの件、畑中委員からあった木材や竹を材料として使うというようなこと、具体的な方策についても提案されている。そういうものが、ここに反映されないとおかしいと思う。これからは自然エネルギーをどうやって使っていくのかということが重要で、それを開発に上手く取り入れて行けば、事業者としても利益が出る産業になると思っているが、そういったことが検討される様な場にしてほしいと思っている。

畑中委員からも色々と例の話はあったが、具体的な提案をしてもらえるような場になればと思う。どうも表面的な議論ばかりで、世の中が求めている動きに遅れてしまう。どこまで遅れているのかもつかめないという状況ではないかと思う。

上甫木委員長 おっしゃることはよく分かりますが、昨年度、第2次基本計画を策定しその中で、今日の資料にもある環境像とリーディングプロジェクトといったフレームの中で進めましょうと環境推進委員会の中でも議論し、一旦、みなさんで決めたことである。

プラットフォームなどの具体的な活動の中で、具体的な取組みを変更して行く、委員の意見なども揉みながら、平行して行っていく。そしてその成果をリーディングプロジェクトの中で具体的に、この場で報告していただくと、さらに充実した議論がこの場でも出来る。

目標を増やすなどの議論は、計画進めながら必要があれば改定を行っていくということだと思う。第1次計画と比べると具体的な目標像なども設定され、精華町の規模での情報収集や職員の数なども制限されている中で、私自身は大変な作業が次年度以降待っているのではないかとも思っている。

町民の取組に繋げる事は非常に大切な話である。このプラットフォーム等の中での議論をしっかりと煮詰めながら、この場でもみなさんの意見を出していただきながら進めて行きたい。

信田委員 今の所は、このフォーマットについての議論であり、中身についてはこれからと言うことか。

上甫木委員長 その通りである。中身については取組ながら進めていく事となる。

信田委員 そうゆう事であれば、このフォーマットで進めていただければ良いと思う。

畑中委員 環境目標の所に「Do」となっているが、これはどうなのか。環境目標は Plan の中にはいっているので「C」の所に使うのかと思う。

また、サイクルの話について、精華町の環境基本計画はビジョン型の大きな方針が書かれた計画なので、その計画を PDCA サイクルの「P」として位置付けことが適切かどうかである。最近では、違うサイクルが言われており、PDCA ではなかなか事が進まないということで、DCPA と言われている。

まず、「Do」やってみる、そしてそれがどうだったのか「Check」して、それに基づいて次の行動を「Plan（計画）」して、「Action」実行する。そういったサイクルが産業界を中心に言われている。

そうすると、ここの PDCA の P は基本計画の P では無く、毎年の行動計画としての P と考えると、大局的な P になるので、取組実績から主な施策・事業の進捗状況までが D、環境推進委員会の評価が C、今後に向けてが、P と A になるのではないか。

先ほど、井澤委員や信田委員の意見の通り、具体のアクションを見える化していかないといけない。その場合、この様な考え方もあるのではないか。

また、環境の問題に関しては民間企業の方が動きが早く、動き始めているので、脱炭素の話もサプライチェーンのスコープ3で、企業規模に関わらずどんどん動かないといけない状況になっており、公共セクターが取り残されていくのではないかと思う。

よって、基本計画の P はおいておいて、具体の行動計画のための P を議論できるとよいのではないかと思う。

上甫木委員長 ありがとうございます。企業の方がかなり進んでいるという話ですがご意見があればお願いしたい。

寺本英樹委員 フォーマットについては、みなさんも含めて特に疑義はないと思うが、実際に何をやるのかが重要である。

我々企業としては何をやるにも継続することが必要で、予算や人手をどう確保するのか、事業計画を立てるときに重要になってくる。

毎年、精華町の冊子が送られて来る。今年の事業などについて記載があるが、たとえばその冊子に竹林についていえば、年間の行事スケジュールを出して、藪の整備をして、その後、筍掘りやタケノコを食べてというような呼びかけがあれば町民にも参加してもらえるのではないかと思う。そのように循環して行って、それを続けることが住民参加型でありSDGsに繋がる。行政としては、こういった目標と事業者、町民をつなぐ部分が重要で、求められているのではないかと思っている。最初から満点は無理だと思うが、我々にとっては、これは事業計画なので、その事業計画どうやって継続して行くのか、事業者・町民をつなぐ部分、具体的な事業のアイデア、何かを始めることが重要ではないかと思う。

畑中委員 今おっしゃっていたように、筍掘りに声をかけるなどの具体のアクションレベルになるとみなさんも取組やすい。基本計画の大きな議論は町民のみなさんもなかなかし辛い。

上甫木委員長 そのことが、要因分析や評価に繋がって行く。

畑中委員 竹藪払いをやってみて、タケノコを配る、一人でするのが大変ということがわかれば、人を集めるなど、町全体の動きに繋がって行くのではないか。

信田委員 この場の議論は難しいのかも知れないが、町の中で予算を付けていくことが重要で、どの様な事業をやるのか。例えば竹資源一つとっても、事業化まで考えないと進まない。今すぐは難しいとは思いますが、最終的には予算に反映できるような会議にしていかなければいけないと思っている。

上甫木委員長 今の話だと、具体の行動計画を立てて、行政がしっかり繋ぎながら町民のみなさんに参画していただくとすると、リーディングプロジェクトが重要な意味を持って来る。

リーディングプロジェクトは行動計画を立てやすく、どう具体化し

ていくのかという部分で対応できるのではないかと思います。そこを強調して、次をどう進めて行くのか、もう少し突っ込んで書いて行くとか分かり良いと思われる。その成果が目標像の所に反映されて行くという構造ではないか。

走りながら考えなければならない部分もあると思うので、本日いただいた意見を踏まえて町の方で検討していただきたい。今日のところの議論はここまでとさせていただき、また意見があれば、事務局にお伝えいただければと思う。

では引き続いてスケジュールについてお願いしたい。

事務局 <資料③、当日配布参考資料「精華町災害廃棄物処理計画の策定について」、説明>

プラットフォームの予定については、調整中となっているが、本日の議論で重要になると思うので、早めに決めて行動に移して行きたい。

上甫木委員長 ありがとうございます。来年度の年間スケジュール等について何かご質問等あればお願いしたい。

岩本委員 精華町災害廃棄物処理計画の策定が来年度の目玉になるかと思われるが、防災の考え方が今までの集中避難から分散避難に変わると聞いている。特に自動車の災害廃棄物について、水害の場合、5 mほどつかるといふ話もあるので、そうすると車は全てだめになってしまう、これが一番の問題であると思っている。町の防災計画の方針が決まらないと災害廃棄物処理計画については検討が進められないのではないか。その辺りのスケジュールについて分かる範囲で説明いただきたい。

事務局；竹島 防災計画との整合性は当然とらなければならないが、基本的には災害が発生した際に、まずはこれを片付けないと復興作業に行きつけないという話があり、水害や震災の想定を踏まえた上でどれぐらいのごみの量が出るのかを推察し、どのように処理して行くのかの計画である。関連計画とのすり合わせは行うが、これまでの基礎調査を踏まえた環境サイドでの廃棄物処理計画を立てて行きたい。防災部局と調整についてはこれからとなる。

鷹居委員 ということは、今は未だ全く災害廃棄物の処理計画は持っていなかったのか。こういった手順でやるかということは決まっていないのか。

- 事務局：竹島 そのとおりである。
- 鷹居委員 そういうことであれば、一刻も早く手順をつくらないといけない。
- 事務局：竹島 環境の一部なので、素案が出来た時点でみなさんのご意見も確認させていただきたいと考えている。
- 岩本委員 私たちの地域の理事会では、木津川決壊もしくは内水氾濫が起きると5m浸水する地域になっていて、当初は精華中学校や小学校に避難するという話だったが、この何年かで分散避難という考え方になり、地域としていろいろなところに分散して避難する防災計画を考えている。
- 地域としては、あいまいな情報ではなく、具体的な避難場所を示したいと思っているが、町に防災計画の改定を行うので待ってほしいと言われている。
- 地域の防災計画の中では風水害の被害が大きいと考えている。風水害のレベル3であれば、確実に車や徒歩でも避難が可能であるので、レベル3で計画を進めている。いずれにしても車の被害が大きいと思っており、この撤去や処理の手順については、早く決めてほしいと思っている。
- 事務局：竹島 防災関連も、個別計画の策定について検討中であると聞いている。
- 畑中委員 参考としてお話をさせていただく。気候変動の関係で、被害想定が難しくなっている。今までは過去の実績に基づいて被害想定をしていたが、それでは想定が出来なくなって来ている。もう一つ、水害関係の災害廃棄物の算出方法が問題になっているということで、実態と合わなくなっており国が非難されている面がある。このあたり、トピックとしてお伝えしておきたいと思う。
- もう一つ、スケジュールのフォーマットについて、新しく考えてみてもらえると良いのではないかと思う。色分けするとか少し分かりやすくしてもらえればと思う。どこがDoでどこがCでといったことがわかりやすくなればと思う。
- 上甫木委員長 フォーマットに案に関しては非常にラフなものであったので、もう

少し PDCA の関係性が分かるように示していただきたい。

来年度は例年と違って3回になるということかと思う。年次報告について、次年度の取組に反映するために、少し早めるということが変更点であると聞いている。災害廃棄物計画については、一刻も早くということなのでお願いしたい。

寺本委員 本日配布されている環境推進委員会の規則があるが、これは何か変更があったのか。

事務局：奥村 今回初めての方がいらっしゃるので、配布している。

信田委員 前回の会議録が4か月遅れである。

事務局：竹島 1か月程度で町のホームページに掲載している。また、公表前に委員のみなさんには確認していただいている。再度、参考に前回の議事録を付けさせていただいている。

信田委員 それは失礼しました。

上甫木委員長 他になれば事務局に戻したい。

事務局：竹島 みなさまありがとうございます。クールチョイスに関して今年度から取り組んでいるチラシを改めて配布させていただき、参考にさせていただき、ご家族などへの紹介と取組もよろしくをお願いしたい。

また、参考に精華町一般廃棄物処理計画を配布しているが、令和4年度に中間の見直しを並行して行いたいと考えている。新しいごみ処理場が木津川市に出来て状況が変わってきている。また、プラスチックについても、新たな法整備もされ状況が変わってきている。これらについてもご意見等をいただきたいと考えている。

本日のいただきました意見を踏まえて、事務局で検討し、上甫木委員長に確認をいただきながら修正を行い、次回の推進委員会の際にお示ししたい。引き続きよろしくをお願いしたい。また、お気づきの点等あれば、ご連絡いただきたい。本日は、お忙しい中ありがとうございました。

事務局：奥村 次回以降の開催予定については以下の通りである。

■令和4年度1回目 7月20日(水)午前10時からを予定
場所は本日と同じで開催予定。

■令和4年度2回目 11月9日(水)午前10時からを予定
以降は、また改めて決定することとした。

※委員長は、木曜日は避けて欲しいと希望されている。

3. 閉会